

入試投稿問題を考える

京大などの入試問題がインターネットの質問サイトに投稿された問題で、予備校生が逮捕されるという事態となったことは、極めて残念であり、遺憾なことです。

某新聞を読んでおりましたら東京都内の私大教員の発言として、ネット社会に対応できなかった大学側にも責任があるとした上で、問題の予備校生は「この重大さが分からなかっただけなのではないか・・・」という記事が目にとまりました。

確かに、事件発覚後の各大学の右往左往ぶりを見ると、ネット社会に対応できていない面もあろうかと思いますが、だからといって、こうした事件を大学側の責任に転嫁する訳にはいきません。監督・監視体制がどうであれ、カンニングをした学生に責任があることは自明のことです。

今回の事件を通して考えていかなければならないことが幾つかあります。

一点目は、情報ツールが高度化し、ここまで来たかと驚かれた方が多かったのではないかと思います。こうした周辺環境の変化に対して、大学側としては、試験監督の在り方を抜本的に見直す必要があるでしょう。

同時に、入るに難しく出るに優しいという「名ばかり大学生」を大量に生み出している今日の大学入試制度そのものを見直していく良いきっかけではないかと思えます。

二点目は、情報教育の重要性ということです。

大学では、学生が論文をコピー&ペーストする行為が横行しているともいわれていますが、これに限らず、安直に、ネット上の情報を盗用してはばからない風潮は危機的ですからあります。

特に、自分で物事をしっかり考え、判断し行動しなければならないときに、安易にネット上の情報を拾い集めて、それで自分としてちゃんと考えていると思いこんでしまう。これは、恐ろしいことです。その恐ろしさを、子どもたちにしっかりと教えていただきたいと思います。

三点目は、情報教育と繋がる話ではありますが、モラル教育が必要だということ です。

先程の、大学教員のコメントに「ことの重大性がわからなかっただけ・・・」とありますが、この「・・・だけ」ということが非常に気になります。

最近、子どもだけでなく大人の中にも、万引が犯罪だと考えないものがあると聞きました。やってはいけないことの規範のレベルが低くなっている、自分さえ良ければ良いと考える人間が増えているということでもあります。

こうした中、子どもたちを巡っては非常に厳しい環境にあります。発達段階に応じた道徳教育がますます重要性を増していると思っています。

もっとも、子どもを云々する前に、まずは大人がしっかりしなければなりません。

でも、残念ながら、これは子どもたちの教育より遙かにしんどいことのように思えて仕方ありません。 （塾頭 吉田 洋一）